

II - 4 参加都市発表

福岡市(日本国)



高島 宗一郎 (たかしま そういちろう)

市長

発表テーマ

「人と環境と都市活力の調和がとれた都市づくり」

福岡市の住みやすい都市づくりは50年前のマスタープランにさかのばる。25年前の改定後は、文化交流事業や国際コンベンション誘致など、国際化施策に取り組んできた。

2012年12月に策定した新たな基本構想・基本計画では、「人と環境と都市活力の調和がとれた都市」という新しいビジョンを掲げている。主な取組みを紹介したい。

「人」については、「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの理念に基づき、鉄道や道路などのハード整備と、一人一人が思いやりの心を持てるようなソフトの取組みの両面から、まちづくりを進めている。

「環境」については、節水型都市づくりの一環として効率的な配水に取り組んでいる。全国に先駆けて導入した「配水調整システム」は、市内各所の水道管の流量計や電動弁などを集中監視・制御して配水量や水圧をコントロールし、漏水防止に効果をあげている。

また、1999年と2003年に集中豪雨により甚大な浸水被害を受けたことを踏まえ、浸水対策にも取り組んでいる。都心での特徴的な取組みとしては、公園に大規模な雨水調整池を整備したほか、雨水貯留機能を持つ大口径の雨水幹線も整備した。

ごみ処理に関しては、可燃物は焼却処理し、焼却灰と不燃物は「福岡方式」と呼ばれる準好気性の埋立てを行っている。野積み方式に比べ、浸出水が浄化され、メタンガスの排出が少ないほか、早期に地中が安定化し、埋立て終了後、跡地の早期利用が可能である。

「都市活力」については、第3次産業が9割を占める都市として、MICE推進などを進めているが、このような都市活力につながる取組みは行政だけでは進めることができない。そのため、産学官の組織を作り、将来像を共有しながら、プロジェクトを進めている。

市民とともに「人と環境と都市活力の調和がとれた都市」をつくっていきたい。

熊本市(日本国)



幸山 政史 (こうやま せいし)

市長

発表テーマ

「湧水が潤す城下町 熊本」

「水」と「熊本城」という重要な二要素を活かした熊本市の都市づくりを紹介したい。市内には多くの湧水地があり、70万市民の水道水源をすべて清らかな地下水でまかなっているが、地下水の量は減少傾向にある。これは、宅地化や道路整備、水田面積の減少などで雨水が地下に浸透しにくい環境に変化したことが原因だと考えられる。

そこで市は、地下水の量を増やすため、農作物を栽培しない時期の水田に水を張ることへの支援や、近隣市町村の協力のもと、市域を越えて約800haにわたる水源かん養林の整備を行っている。また、地下水の汲み上げ量を減らすため、市民総参加の節水運動を実施している。

また、清らかで豊かな地下水は、近隣市町村を含む熊本都市圏でも産業に活かされ、半導体や食品関連産業など多くの産業が集積しているほか、多様な農水産物を育んでいる。農水産物については、生産者と商工業者などの事業者が連携し、農水産物を使った付加価値の高い商品や新たな産業の創造、販路拡大に向けて取り組んでいる。

国内屈指の名城である熊本城の存在によって、市民は郷土への愛着や誇りを感じることができる。現在も復元整備を進めているほか、文化的なイベントの開催などで、熊本城を活かした地域の賑わいづくりも行っている。

現在、城の南側のシンボルロードと両側の桜町・花畠地区の整備を計画しており、桜町地区にはコンサートや国際会議などに利用できる3,000人収容のコンベンション施設を予定している。一方の花畠地区は、コンベンション施設と中心市街地との結節性や、周辺の公園と歩行者空間との一体性も考慮したオープンスペースとして整備したいと考えている。

歴史や環境を活かしながら、多くの人々が集いたくなるような空間に整備し、さらなる暮らしやすさと魅力ある都市づくりにつなげていきたい。

浦項市(大韓民国)



JUNG ByungYoon (ジョン・ビョンユン)

副市長

発表テーマ

「人と自然が共生する都市、 浦項における持続可能な社会経済的発展 および環境保護の推進策」

浦項市は韓国南東部の海岸沿いに位置し、人口53万人、面積1,127km²の世界的な鉄鋼業の都市、また、浦項工科大学や放射光加速器研究所などの一流の研究機関と研究者がそろった科学研究都市、物流及びビジネスの中心都市である。しかし本市の鉄鋼業は、2000年代に入り、国内外の競争の激化と世界的な景気低迷により苦戦している。また本市は、鉄鋼業の都市として環境汚染都市というイメージが残るとともに、急速な産業化による環境問題、首都圏から離れた地方都市としての問題点も抱えている。

こうした問題の克服のため、交易・交通網の拡充、大規模な産業団地の造成、各種物流インフラの構築を進め、快適な環境都市、市民が幸福に暮らしやすい、魅力的な都市になるために努力を続けている。

本市は環境面で様々な取組みをしている。代表的なものとして、開発により埋め立てられた1.3kmの小川を復元し、水路をつなげ、美しい東浜内港の本来の姿を取り戻す「浦項運河建設事業」、倉庫など周辺の景観を損なう施設を取り壊し、市民の憩いの場を創出する「東浜埠頭整備事業」、中央商店街に小川を造成する活性化事業、鉄道廃線跡地を都市の森に生まれ変わらせる事業、迎日台海水浴場に市民が楽しめるようなテーマ性のある通りを整備する事業、環境汚染や気候変動によって姿を変えてしまった松島海水浴場の復元事業、全市民が木を育て、市民の地域を愛する心を育むとともに、都市の緑化に貢献する「マイツリー運動」、下水処理場の一带に環境にやさしい自然公園を造成する事業がある。

本市は鉄鋼産業都市から海洋観光都市へ変化しており、環太平洋経済圏のハブとして、国際物流と交流の拠点となり、全市民が幸せな都市、誰もが住みたくなるような都市、世界の中心となるようなグローバル都市として生まれ変わるだろう。

光陽市(大韓民国)



LEE SungWoong (イ・ソンウン)

市長

発表テーマ

「持続可能で環境にやさしい都市構築」

光陽市は朝鮮半島の南海岸サンベルトの中心都市として発展しているが、環境面では、光陽湾地域の大規模な重化学工業団地からもたらされる環境汚染の問題がある。本市は環境政策の方向性として、「環境にやさしい、持続可能な都市」というビジョンのもと、低炭素の資源リサイクル、都市環境の保全と再生、地域コミュニティの活性化、持続可能な雇用の創出などの政策に取り組み、開発と環境保全の調和がとれた都市をめざしている。

実施中の施策としては、生活廃棄物分野では一日42トンの食品廃棄物を有機肥料にリサイクルしている。交通インフラ面では、市内全域の監視カメラを統合管制するセンターの設置、天然ガス車や電気自動車の導入、自転車専用道路やサイクリング・テーマロードの整備を行った。再生可能でクリーンなエネルギーの供給にも注力しており、太陽光発電施設や太陽熱利用施設を設置した。環境配慮型住宅1千戸の建設も継続している。

水質汚濁防止策としては、5か所の下水処理施設のほか、山の谷間の村周辺に37か所の小規模下水処理施設を設置し、河川の水質汚濁を防いでいる。大気環境面では、「国家産業団地大気環境監視システム」により大気中の臭気や粉じんをリアルタイムで監視している。

環境配慮型の産業育成や都市づくりの面では、企業間でネットワークを構築して副産物を再利用する、環境にやさしい産業団地を建設している。また、産学官連携の協議会による植林や粉じん大量発生事業所の設備改善など、関係機関の連携で、生態系の保全や大気汚染の改善に効果をあげている。企業と市民が連携した植樹運動、市民・団体・企業・専門家が参加する協議会によるグリーンリーダー養成や気候変化教育なども推進している。

今後も、市民、企業、他の自治体との情報共有、対話、協力により地域の環境問題の解決に取り組むほか、環境関連産業の育成や誘致により環境改善と雇用創出をめざしていく。